

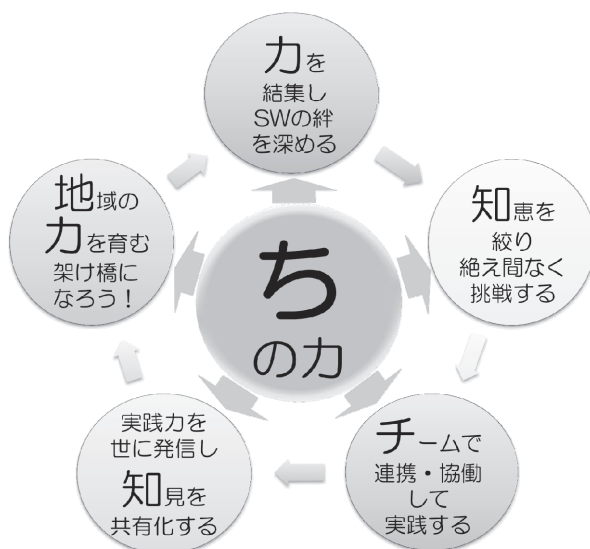
ソーシャルワーカーデー東京 ・実践研究大会

2016

資料集

東京のテーマは、『ちの力』

東京は、「ち」からソーシャルアクション始めます！



日時：2016年9月3日（土）

会場：日本体育大学 世田谷キャンパス 教育研究棟

主催：公益社団法人 東京社会福祉士会

ソーシャルワーカーデー東京・実践研究大会開催にあたって

公益社団法人東京社会福祉士会

会長 大輪 典子

私たち公益社団法人東京社会福祉士会では、昨年度の総会において、当会の「法人理念」および「使命と役割」を制定いたしました。そして今年度の重点施策には、会の活動をより活性化し、その活動成果を外部に発信することによって、更なる会の成長と発展を遂げる基盤を築くことをあげています。

本年度のソーシャルワーカーデーは、実践研究大会との同時開催を行う、初めての試みです。

テーマは、『「ちの力」。東京は、「ち」からソーシャルアクションを始めます！』です。ソーシャルワーカーデーは東京社会福祉士会の文化祭をイメージしています。そして実践研究大会では、当会の社会福祉士の実践を広く一般の方にも知っていただく発信の場としています。多くの社会福祉士の方々に、私たち東京社会福祉士会の活動の輪の中に加わっていただいて、共に地域の力を育む大きな架け橋を築いていければ、と強く念じています。会員の方々には、イベント、活動展示、実践研究大会等に積極的に参加いただき、また仲間を誘っていただきました。本日が、一人ひとりにとって有意義なものになりますことを祈念いたします。

最後に、ソーシャルワーカーデー東京・実践研究大会 2016 が、オリンピック開催の年に、日本体育大学で、そしてこの世田谷キャンパスをお借りして開催できますことは、東京社会福祉士会として記念すべき一大イベントと言えます。これはひとえに、本会の理事で日本体育大学の横山先生のご尽力の賜物です。また、多くのスタッフの方々が着実に準備を重ねてくれたおかげです。

皆様に厚くお礼を申し上げ、ご挨拶といたします。

公益社団法人東京社会福祉士会

ソーシャルワーカーデー東京・実践研究大会 2016 運営実行委員長

理事 勢登 裕介

私たち東京社会福祉士会は公益社団法人となって早4年。これまで過去2回、豊島区、大田区にて地区社会福祉士会の有志によってソーシャルワーカーデー東京を開催してまいりました。平成28年、本会が主催するイベントとして開催に向けて会員、各センターから有志を募り、運営実行委員を組織し、開催に向けて一丸となって取り組んで参りました。

ソーシャルワーカーデー東京と、地域で活躍する社会福祉士の実践について発表する場となる実践研究大会 2016 の同時開催は、今回初の試みです。同時開催することにより、社会福祉士だけでなく地域の皆さまにも社会福祉士の活動や実践、支援を必要としている方々との関わり、そして、何よりも皆さまの身近に社会福祉士がいることを知っていただく良い機会になればと願っております。

今回のイベントを通じて、社会福祉士と地域の皆さまとの距離が縮まり、新たな発見や可能性が生まれる場となれば幸いです。

東京社会福祉士会会員一同、多くの皆さまにお会いできることを心より願っております。

ソーシャルワーカーデー東京・実践研究大会2016

【目次】

○ 開催要綱	1
○ プログラム	2
○ 会場案内図	3
○ 講師及び出演者紹介	6
○ 基調講演資料	9
○ パネルディスカッション 発表要旨	25
○ いなぎ i スター劇団の紹介資料	31
○ 実践研究大会抄録集、活動実践報告・事業報告・ワークショップ資料	33
○ 東京社会福祉士会の理念、使命と役割	51

ソーシャルワーカーデー東京・実践研究大会2016 開催要綱

1. 開催趣旨

本企画は、ソーシャルケアサービス従事者研究協議会において2009年に定められたソーシャルワーカーデー（「海の日」2016年は7月18日）に関連して、東京都及び近隣地域で行っているソーシャルワーカーの実践活動について、広く一般に普及と啓発を図るとともに、他の職能団体、市民との連携・協働の意義を考える機会を持ち、東京の地域福祉におけるソーシャルワーカーの果たす役割や機能を明らかにし、ソーシャルワーカーの更なる専門性の向上と結束を図り、地域の力を育む架け橋となることを目的として開催します。

2. 開催日時 2016年9月3日（土） 10:30 ～ 16:40

3. 会場 日本体育大学 世田谷キャンパス 教育研究棟
（〒158-8508 東京都世田谷区深沢 7-1-1 ）

4. テーマ 「ち」の力 ― 東京は、「ち」からソーシャルアクション始めます！―

5. コンセプト ① 力を結集しSWの絆を深める
② 知恵を絞り絶え間なく挑戦する
③ チームで連携・協働して実践する
④ 実践力を世に発信し知見を共有化する
⑤ 地域の力を育む架け橋になろう！

6. 主催 公益社団法人東京社会福祉士会

7. 共催 世田谷社会福祉士会

8. 参加定員 600名

9. 参加対象 一般、社会福祉関係者、社会福祉養成校教員・学生

10. 参加費 無料

11. 問合せ先 公益社団法人東京社会福祉士会事務局 担当 齋藤知恵、渡會沙織
〒170-0005 東京都豊島区南大塚 3-43-11 福祉財団ビル5階
Tel : 03-5944-8466 Fax : 03-5944-8467 MAIL : social_workers_day@tokyo-csw.org

12. 後援 (順不同・法人種類省略)
東京都、世田谷区、東京都社会福祉協議会、世田谷区社会福祉協議会、日本社会福祉士養成校協会
日本社会福祉教育学校連盟、世田谷区社会福祉事業団、せたがや福社區民学会

プログラム

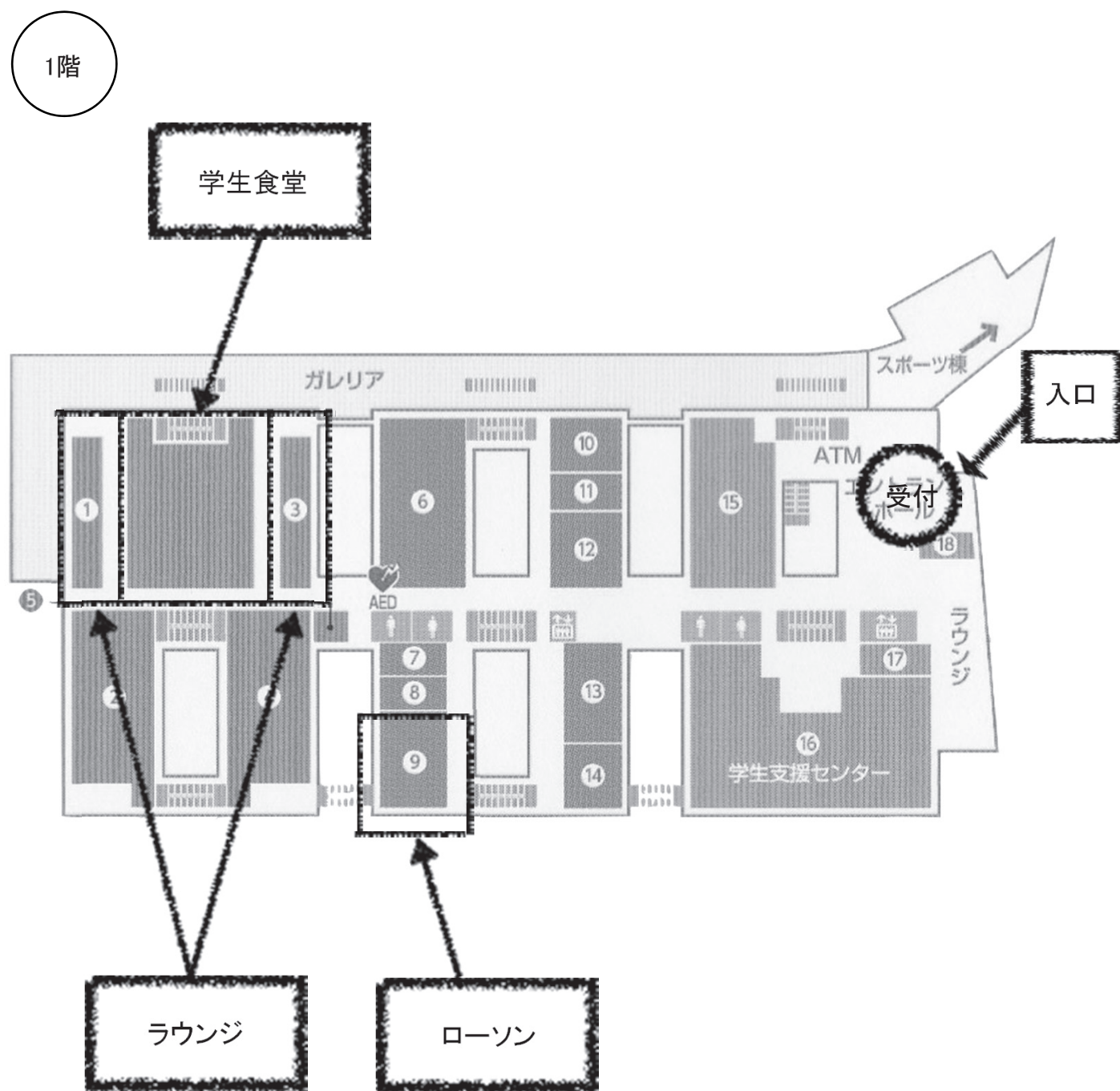
《B/G階》

時間	記念講堂
10:30~10:45	開会 主催者挨拶
10:45~12:15	基調講演 「ちいきの底力UP」—地域で支える人たちのために— ルーテル学院大学名誉教授 福山 和女 氏
13:15~14:45	ケアドル公演 「痛ドル(ケアドル)の“ちの力” ソーシャルアクション」
15:00~16:30	パネルディスカッション 「ちの力」を深堀りします！ ＜コーディネーター＞ 東京都立大学(現首都大学東京)名誉教授 小林 良二 氏 ＜パネリスト＞順不同 司法福祉委員会副委員長、日本社会福祉士会理事 松友 了氏 東京都社会福祉協議会評議員、母子生活支援施設さくら荘施設長 真下恵子氏 世田谷区社会福祉協議会成年後見センター 田邊仁重氏 ケアドル さちこさん
16:30	閉会

《2階》

時間	3205 教室	2203 教室	2205 教室	2202 教室
12:15	(実践研究) 発達障害者とその家族に対する相談支援のあり方について	(実践研究) 障害者就労支援事業所における施設外就労導入の効果について	(事業報告) (活動実践報告) 低所得者支援事業センター	福祉相談会 & ポスター活動展示 &
12:45	(実践研究) 意思決定支援における動機づけ面接の応用について	(実践研究) 電話相談におけるソーシャルワーク実践	(ワークショップ) 災害福祉委員会 「防災・減災を考える」	出版物展示
13:15	(実践研究) 文献レビューによるスピリチュアルアセスメント方法の一考察	(活動実践報告) 司法福祉委員会		いなぎiスター劇団 寸劇&合唱とクイズ
13:45	(実践研究) 宿泊所から見える「法制度の対象にならない福祉ニーズ」	(ワークショップ) 就労支援委員会 「就労支援における連携とは」	(ワークショップ) 権利擁護センター ぱあとなあ東京 「意思決定支援に配慮した後見実践のあり方について」	
14:15	(実践研究) 都内就労支援事業所による高次脳機能障がい者支援の可能性			

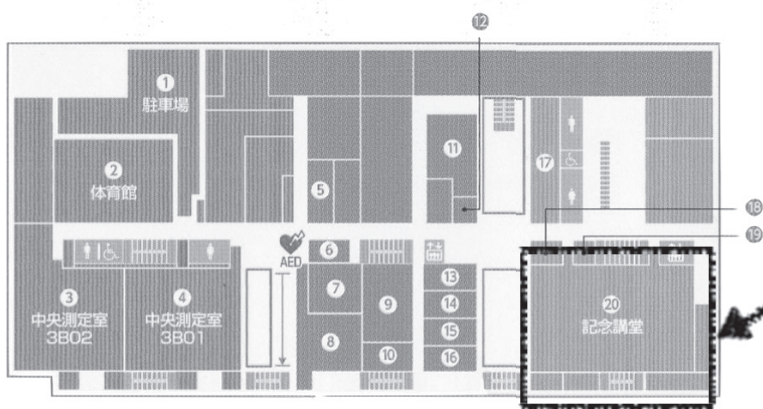
受付、昼食、休憩のご案内(1階)



会場内は飲食ができません。
お食事や休憩の際は、学生食堂およびラウンジをご利用ください。

ソーシャルワーカー・イベント(記念講堂)

B階



一階席へはB階から
二階席へはG階から
お入りください。

※ 一階席に優先席をご用意
しています。

10:30 開会

10:45 基調講演 「ちいきの底力UP」—地域で支える人たちのために—

13:15 福祉現場で活躍中のアイドル(ケアドル)によるステージショー

15:00 パネルディスカッション ～「ちの力」を深掘りします！

16:30 閉会

会場内は飲食ができません。
お食事や休憩の際は、学生食堂およびラウンジをご利用ください。

実践研究大会(2階教室)

3205教室

実践研究大会

- 12:15 発達障害者とその家族に対する相談支援のあり方について
- 12:45 意思決定支援における動機づけ面接の応用について
- 13:15 文献レビューによるスピリチュアルアセスメント方法の一考察
- 13:45 宿泊所から見える「法制度の対象にならない福祉ニーズ」
- 14:15 都内就労支援事業所による高次脳機能障がい者支援の可能性

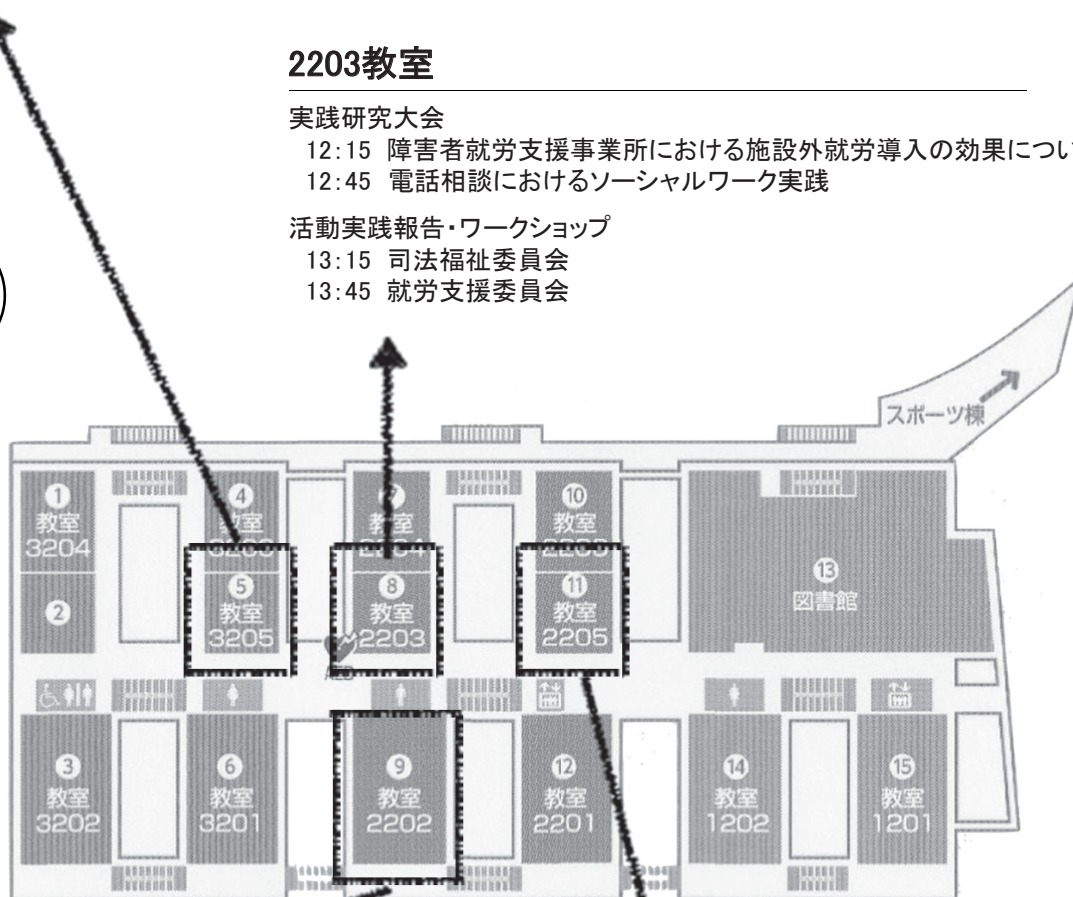
2203教室

実践研究大会

- 12:15 障害者就労支援事業所における施設外就労導入の効果について
- 12:45 電話相談におけるソーシャルワーク実践

活動実践報告・ワークショップ

- 13:15 司法福祉委員会
- 13:45 就労支援委員会



2202教室

- 12:15 ポスターによる地区社会福祉士会／委員会の活動紹介
- 12:15 福祉相談会
- 12:15 休憩スペース(出版物などを展示しています)
- 13:15 いなぎいスター劇団による寸劇&合唱とクイズ

2205教室

事業報告・活動実践報告・ワークショップ

- 12:15 低所得者支援事業センター
- 12:45 災害福祉委員会
- 13:45 ぱあとなあ東京

すべてのプログラムは、14:45までです。

会場内は飲食ができません。お食事や休憩の際は、学生食堂およびラウンジをご利用ください。

講師及び出演者紹介

福山 和女 氏 (基調講演)

ルーテル学院大学 名誉教授



【経 歴】

同志社大学卒。同大学大学院修士課程修了。カリフォルニア大学バークレイ校修士課程修了。公衆衛生学修士 (MPH)。アメリカ・カトリック大学大学院博士課程修了。社会福祉学博士 (DSW)。

ルーテル学院大学名誉教授、大学院附属包括的臨床コンサルテーションセンター長、東京社会福祉士会監事

【著 書】

監訳『統合的短期型ソーシャルワーク』（金剛出版、2014）、『ソーシャルワークのスーパービジョン～人の理解の探求～』（ミネルヴァ書房、2005）等

小林 良二 氏 (パネルディスカッション・コーディネーター)

東京都立大学 (現首都大学東京) 名誉教授



【経 歴】

特殊法人社会保障研究所 (現国立社会保障・人口問題研究所) 研究員、東京都立大学 (現首都大学東京) 人文学部助教授・教授、東洋大学社会学部教授 (2016年3月退職)、東京都立大学名誉教授

【著 書】

『協働性の福祉社会学—個人化社会の連帯』（東京大学出版、2013／共著）等

松友 了 氏 (パネルディスカッション・パネリスト)

(公社) 日本社会福祉士会 理事／リーガル・SW研究委員会 委員長

【経 歴】 佐賀県出身

早稲田大学第一文学部 (社会学専攻) 卒業。重度障害者の父として、東京都の福祉門職や障害者運動 (日本てんかん協会・全日本手をつなぐ育成会) の専従役員を勤めた後、(福)南高愛隣会 東京事業本部長、東京地方検察庁・社会復帰支援室 社会福祉アドバイザーを経て、法務省 東京矯正管区 第二部 成人矯正調整官付矯正専門職。他に、学習院女子短期大学や早稲田大学文学部、文京学院大学の非常勤講師、関西福祉大学 客員教授、等

【著 書】

父は吠える一知的障害の息子と共に (ぶどう社, 1996)、知的障害者の人権 (明石書店, 1999/編著)、障害者福祉—社会福祉士を目指す人のために (八千代出版, 1998/共著)、障害者の人権と生活保障 (有斐閣, 1981/共著) 等



真下 恵子 氏 (パネルディスカッション・パネリスト)

東京都社会福祉協議会評議員、母子生活支援施設さくら荘施設長

【経 歴】 神奈川県出身

台東区母子生活支援施設さくら荘施設長、東京都社会福祉協議会母子福祉部会長、東京都社会福祉協議会評議員、全国母子生活支援施設協議会協議員、東京都要保護児童対策地域協議会代表者会議委員



田邊 仁重 氏 (パネルディスカッション・パネリスト)

社会福祉法人世田谷区社会福祉協議会 権利擁護支援課副参事

【経 歴】 兵庫県出身

平成17年10月、世田谷区社会福祉協議会 世田谷区成年後見支援センター設立。平成18年4月、第1回世田谷区区民成年後見人養成研修実施に従事。平成25年4月より現職。区民成年後見人養成研修の立上げから相談・支援・監督、法人後見の受任にかかわっている社会福祉士。

さちこ さん (パネルディスカッション・パネリスト)

地下アイドル・グラビア・イベンター

【経 歴】 北海道網走出身

2011年 社会福祉士・介護福祉士を取得後上京、介護職に従事しながらアイドル活動を開始。現在は介護職を退職し、テレビ・ネット・撮影会などの芸能活動や、イベント・営業活動を中心に行う。

主催ライブである「痛ドル」(痛いアイドルの略)イベントは、yahooニュースを筆頭に数々のネットで注目を集めている。



福祉アイドル (ケアドル) メンバー紹介 (8名)



- ・さちこ：毒舌担当。社会福祉士・イベンター。
- ・もなみ：大食い担当。体重 108 キロ。
- ・少女☆タコサム：パンチラ担当。ダンサー・振り付け師。
- ・飴姉妹来世：ぶりっこ担当。保育士・振り付け師。
- ・杏音：厚化粧担当。セラピスト。
- ・七歌：中二病担当。メンバー唯一の 10 代。
- ・やみん：貧乳担当。ネットタレント。
- ・あやニャンコ：若作り担当。今年 39 歳。

ソーシャルワーカーデー東京・実践研究大会 2016

ソーシャルワーカーデー東京
基調講演資料

地域を支える 地域基盤のソーシャルワーク 職能集団との協働

2016年9月3日
福山和女 ルーテル学院大学

目的

- コミュニティ・ソーシャルワークの発展過程
(質、コンテキストからの視点)
- 現状に見る地域社会での複合的課題
- 社会福祉の領域から地域を支えることの意味
- 職能集団に期待すること

コミュニティ・ソーシャルワーク (community social work)

- 目的: コミュニティーを基盤にしたソーシャルワークを展開し、人々の福利の向上をめざす。
- 効果: 自立支援を基盤にソーシャルワークを展開
個別援助、並びに集団、地域支援により、家族、集団、機関、地域へと相乗効果をもたらすこと
- 手段: 制度、施策・社会資源・ソーシャルサポート・ネットワークなどの開発・創造・計画・実施

2000年ソーシャルワークの定義

ソーシャルワーク専門職は、人間の福祉(ウェルビーイング)の増進を目指して、社会の変革を進め、人間関係における問題解決を図り、人々のエンパワメントと解放を促していく。ソーシャルワークは人間の行動と社会システムに関する理論を利用して、人びとがその環境と相互に影響し合う接点に介入する。人権と正義の原理は、ソーシャルワークの拠り所とする基盤である。

(IFSW; 2000. 7.)

文献: 2006年公益社団法人日本社会福祉士の倫理綱領

2014年

ソーシャルワーク・グローバル定義

ソーシャルワークは、社会変革と社会開発、社会的結束、および人々のエンパワメントと解放を促進する、実践に基づいた専門職であり学問である。社会正義、人権、集団的責任、および多様性尊重の諸原理は、ソーシャルワークの中核をなす。ソーシャルワークの理論、社会科学、人文学、および地域・民族固有の知を基盤として、ソーシャルワークは、**生活課題 (life challenge)** に取り組み、ウェルビーイングを高めるよう、人々やさまざまな構造に働きかける。

http://www.jacsw.or.jp/06_kokusai/IFSW/files/SW_teigi_01403.pdf

ソーシャルワーク2つの定義の 視点の相異

- 2000年:問題解決志向 **緊急対応業務**
 - 因果論 直線的志向
 - 問題解決・取り除く、マイナス、引き算
 - これまでの取り組みを消去する、修正する
- 2014年:生活課題との取組 **通常援助業務**
 - 円環的志向、事象の認め
 - プラス、足し算、補充する、補強する
 - これまでの取り組みの認めに基づき、
努力を積み上げる

2つの定義の必要性

- 2000年SWの定義
- 2014年SWのグローバル定義

意義:2者択一ではなく、2つの定義を駆使し、
ソーシャルワーカーがマイクロからマクロまでの支援を提供できることを自負することが必要であろう。
それが、多職種との連携のなかでのソーシャルワーカーの存在意義でもある。

Ⅱ： 現状での社会的事象

- 背景1:社会状況、専門性の質
- 背景2:組織のヒエラルキーに見る課題
ソーシャルワーカーの専門職性の
平坦化、対等性

Ⅱ－１：コンテキスト

○組織に見る課題

スタッフの構成比の逆転：常勤職対非常勤職
人材の中間層の空洞化
業務遂行の責任の免除
管理者層の職責の重症化（指示系統）

○専門職性の平坦化、対等性の主張

専門職性の同質化と異質化
専門化から非専門化への移行

Ⅱ－２：影響性

○人材：人材不足、社会資源不足、 高離職率、ケアサービスの質の低下

○ケアの質の変化

問題解決型志向への偏重
原因追求型：直線的志向
問題を取り除くための計画案の提示
支援業務の組織化から私的化へ
専門的ケアから誰でもができるケアへと変換
包括的総合的ケアの必要性

ソーシャルワーク創成期の社会事象 友愛訪問の人材

- 人材不足
ボランティア募集、
- 人材確保
得るのは難しく、失うのはいとも簡単
- トレーニングの課題
新人からトレーニング修了者から実践移行
- 専門性の確保対策 ソーシャルワークの専門
職性 資格要件

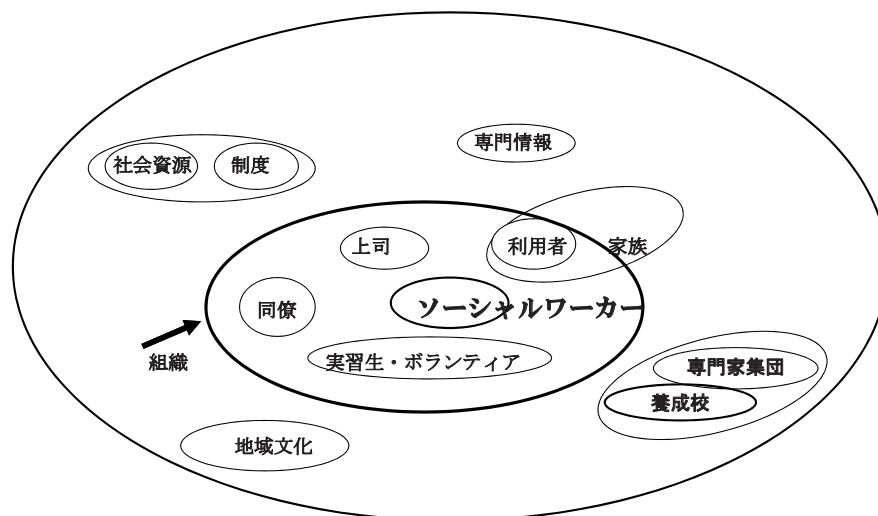
ソーシャルワーク 現在との類似性と相違性

- 類似性
社会事象としては人材の質
- 相違性
専門性
システム論
社会学・社会福祉学の発展
人々・地域の捉え方

ソーシャルワーク 今後の課題

- 問題が解決困難なものになった
しかも増加してきたことへの対応策
- 個人としての特定の問題への解決から
地域社会システムへの包括的総合的効果を
生み出す策が必要となった。
- 領域の拡大: 個から、社会、圏域へ
経済状況、人口の流動、
- 対応方法の変化
文明の拡大

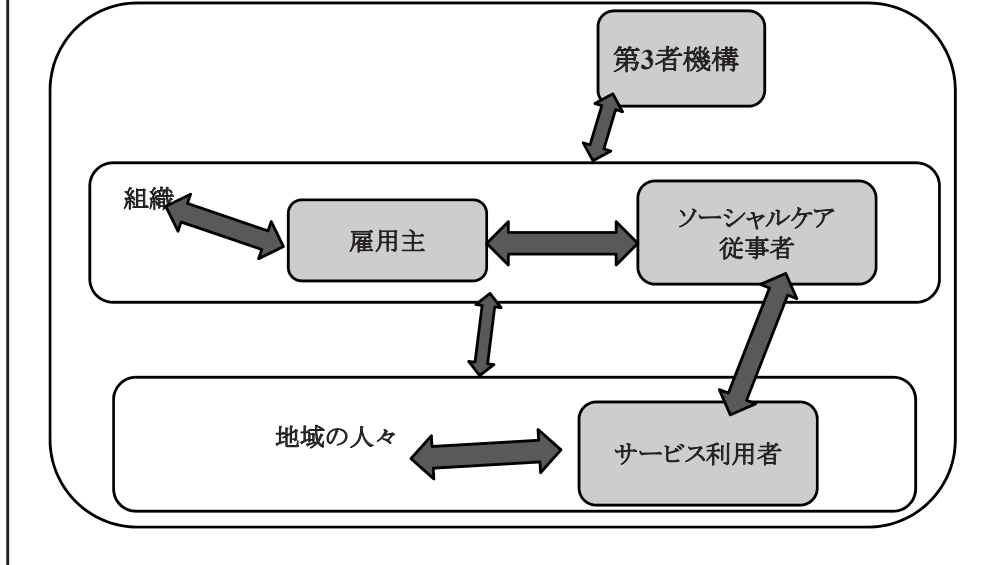
人と環境の相互作用 保健・医療・福祉システムズ



福山和女著『3次元の立体把握』
pp.12～17,FK研究グループ,2009.

ソーシャルケアシステム

共同研究：基盤研究(B) 代表：大橋 謙策『わが国におけるソーシャル・ケア・スタンダード構築のための日米英のモデル比較研究報告書』2005年度～2007年度



ソーシャルワーク支援の変化 情報不足ではなく、情報の限界

- これまでは情報不足が原因であった。それも、個のミクロレベルでの不足であったことから、提供することも可能であった。
- しかし、対応しなければならない事象が広範囲で発生していることから、ミクロを超え、メゾ、マクロレベルの情報不足を補足することが求められてきた。その意味では情報の限界に常に直面することになった。
- これが、概念的議論でいえば、障害や問題というよりも、抑圧事象への対応である

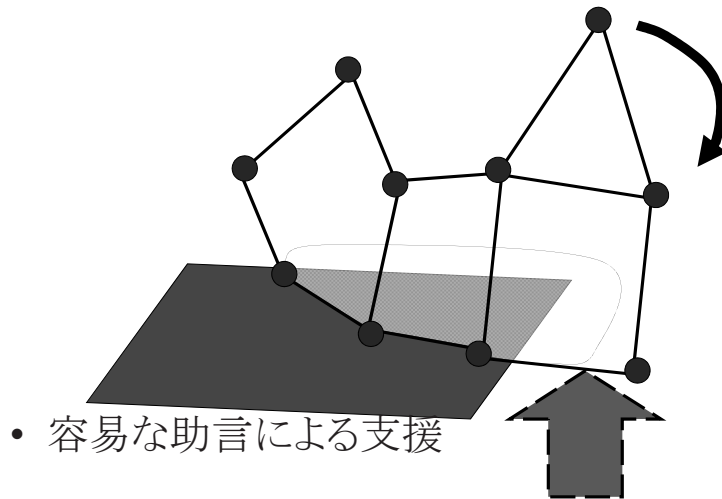
IV: 2つの定義の必要性

- 例: 老人介護福祉施設での死の看取り、虐待、サービス全般
- 医療モデルと生活モデル
- 診断派と機能主義
- 直線的志向と円環的志向
- 2者択一ではなく、2つの定義を持っていて初めて、ソーシャルワーカーがマイクロからマクロまでの支援を提供できることを自負していることが必要であろう。多職種との連携のなかでのソーシャルワーカーの存在意義でもある。

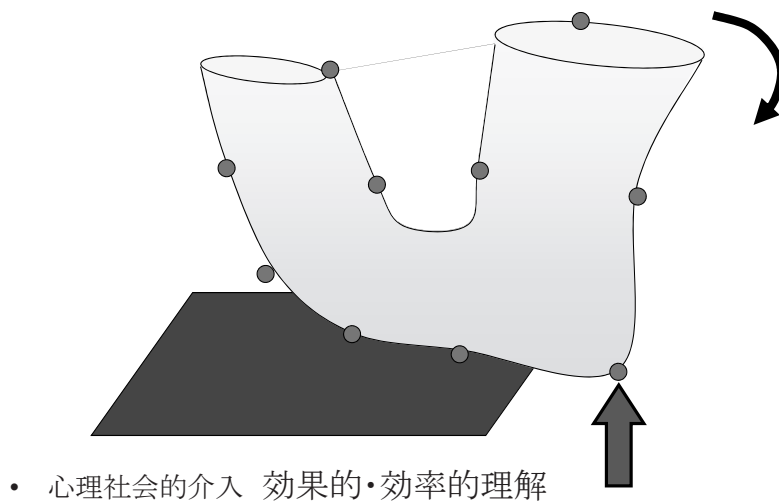
点・線情報（印象＞観念）

- 夫: 死亡, 10年前
- 妻: 65歳, 腰痛, 激しい痛みをともなう四つんばいの状況
- 息子: 40歳, IQ 40

第3段階: 点・線・断面情報の活用 (印象 > 観念)



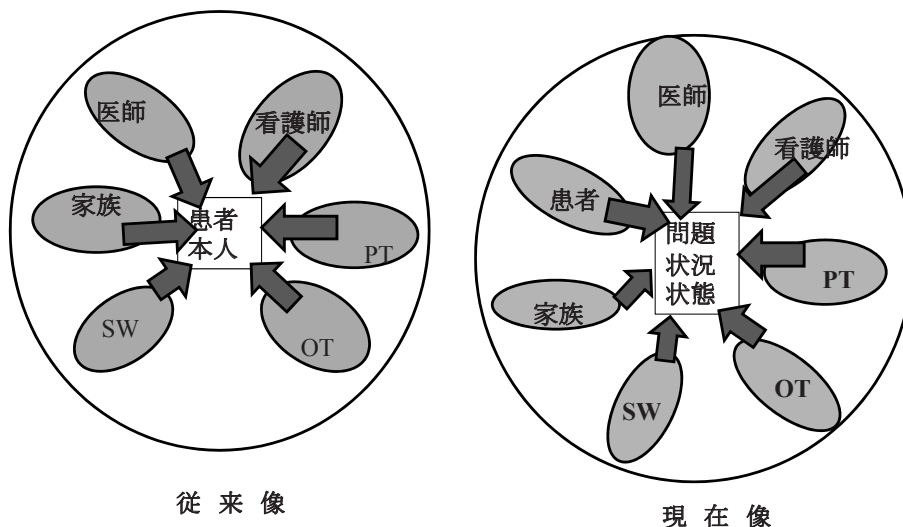
援助観の変遷 重みのある立体理解 (Cubical-Perspective Approach)



SWの2つの定義の適用

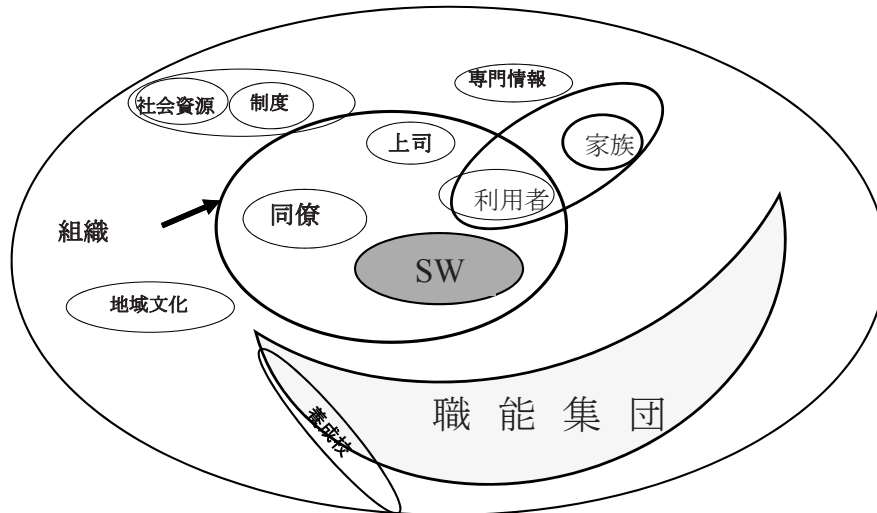
- 知的障害は後天的ですか？
- 息子が、「うん、いいかも」と云った言葉をどのように解しますか？
- 家の中が整理整頓されていたことをどのように解しますか？
- 息子への説明方法の妥当性
- 男性で40歳のイメージは何か。
- 息子は自由な時間が持てるだろうからと考えたことの根拠は何か？

協働：過去と現在



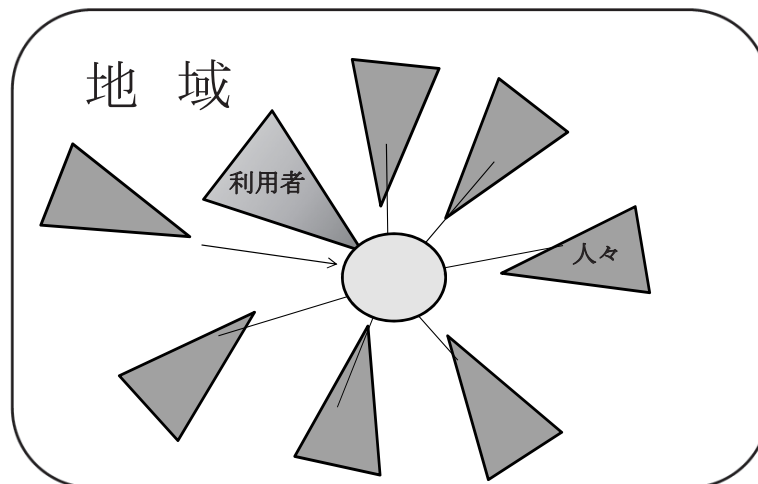
V： 職能集団の立ち位置

保健・医療・福祉システムズ



福山和女著『3次元の立体把握』
pp.12～17,FK研究グループ,2009.

機関間連携 独自性の貢献



ソーシャルワークの発展を期待して

- ご清聴ありがとうございました。



ソーシャルワーカーデー東京・実践研究大会 2016

ソーシャルワーカーデー東京
パネルディスカッション
発表要旨

「知」は闘いの武器

刑事司法 SW／社会福祉士／保護司 松友 了
公益社団法人 日本社会福祉士会 理事／リーガル]・SW研究委員会 委員長

「刑事司法とSWの連携」に関わる者として、驚愕を越えた衝撃的な事件が発生した。人の存在を否定し、その殺害を自らの手で行った青年は、小学校教員免許の所持者であり、障害者施設の支援職員であった。この事件を、我々SWはどのように受け止めるか。

刑事司法とSWの連携は、「非行・犯罪」についての社会モデルからの分析から始まる。人の違法行為は、法律モデルだけでは解決しない。もちろん、医療モデルや心理モデル等々でも不十分であるが、正確な理解と対応策は、それらのモデルが総合的に関わることで可能になる。すなわち、各分野の「知」の結集が必要であり、SWもその一端を担うのである。この悲惨な事件についても、短絡に結論を出してはならない。

「社会的正義と人権、集団的責任および多様性尊重の諸原理は、SWの中核をなす。(国際定義 2014)」は、まさに反知主義との闘いを呼び掛けている。人の存在を否定する思想／犯罪 (Hate Crime) との闘いは、知を武器としたSWが主体にならなければならない。障害分野での Social Action の帰結として司法福祉に到達した老兵は、そう確信する。

母子生活支援施設さくら荘「地域貢献」の取組み

東京都社会福祉協議会 評議員、母子福祉部会長
母子生活支援施設さくら荘 施設長 真下恵子

母子生活支援施設さくら荘では、2006（平成18）年から地域貢献を行ってきた。

- ①「大規模地震への備えと避難所運営」検討会（関係機関（10ヶ所）+学識者）
- ②地域児童（約50名）との防災街歩き、マップ作り
- ③地域の避難場所の開拓（企業、寺、教会）
- ④地域児童との地域清掃、

今回は、2015（平成27）年度から、NPO法人「台東区の子育てを支え合うネットワーク」とタイアップして開催している「無償学習支援」、「こども食堂」について報告する。

1. 無償学習支援

2015（平成27）年4月から、週2回、地域児童を対象に学習支援を開始。

【平成27年度参加児の学年】小学5年生～中学2年生

【学習方法とその効果】

- ①「学習するために、座る」ということが難しい児の場合
 - ・抵抗感が薄れるよう、学習方法を工夫し、関係作りをする中で、勉強に集中する時間を少しずつ延ばしていった。現在、集中力が3倍の時間、保てるようになっている。
- ②問題文の意味が理解できない場合
 - ・問題文の意味がわからないので答えられない場合があり、わかりやすい言葉にして説明し続けることで、問題を理解し、自分で答えを導き出すことができるようになった。
- ③学習に対するコンプレックスから自己肯定感へ
 - ・「勉強ができない自分」という自己イメージを学校生活で深めてきた児が、小学校低学年の問題にさかのぼって「自分で解ける」という実感を持つ積み重ねによって苦手意識を少しずつ克服し、学習に対して意欲が高まってきている。
- ④学習支援から家族支援へ
 - ・学習支援を通して見えてきた家族問題に対して、必要な支援を行うことができた。

2. こども食堂

2015（平成27）年10月から、無償学習支援とつながる形で、NPO法人「台東区の子育てを支え合うネットワーク」とタイアップして「こども食堂」を開始した。月1回、さくら荘に於いて行っている。

【内容と効果】

- ①関係機関との連携の強化ができ、広がっている。
- ②温かく、栄養バランスの良い食事の提供をし、孤食の児童たちが、会話しながら、温かい食事を食べている。児童たちにとっては、居場所になっている。
- ③地域の問題・課題・必要な支援を知ることができる
 - ・参加者から地域の問題・課題を情報収集し、必要な支援を知ることのできる場となっている。「学習支援につなげたい」「孤食の子どもがいて気になる」「母子生活支援施設の情報を得たいと思っている人がいる」「この問題はどこに相談すれば良いのか教えて欲しい」等、気になっていることが出し合え、解決のためのシステムの改善を考え、必要なシステムをつくり出すことができる。

私の“ち”区民成年後見人の活動から思うこと

世田谷区社会福祉協議会成年後見センター

副参事 田邊仁重

1. 地域支えあいの“ち”

- ・ 高齢社会に求められる成年後見人
- ・ 地域の支えあいで区民成年後見人の誕生
- ・ 同じ地域で暮らす生活者ならではの専門性

2. 区民成年後見人に求められるもの

- ・ 他人の人生に関わる畏れ
- ・ 成年被後見人のための最善の選択
- ・ 間違いのない財産管理

3. 区民成年後見人の活動を支える知識の“ち”

- ・ 研修、実践報告など情報交換ができる場の保証
- ・ 行政、専門職との連携によるバックアップ
- ・ いつでも相談、支援が出来る体制

4. 力を合わせての“ち”

- ・ 区民成年後見人と力を合わせて、目指す先は？

『ケアドルの“ちの力” ソーシャルアクション』

さちこ

【ケアドルとは？】

- 福祉×アイドルの概念。“みんなソーシャルワーカー、みんなアイドル”
医療・福祉従事者、当事者として福祉に直接関わるメンバーも。

【私達ケアドルが地下で活動しているグループ「痛ドル」】

- 痛ドル=普通のアイドルではない、個性が強い、痛いアイドル。
- 痛ドルの活動を通して、ケアドルとしての活動に繋がる気付きをご紹介します。
 - ①痛ドルGO!?
 - ②痛ドル芋ほりバスツアー!?

■気付き

もっとたくさんの人たち（福祉機関・子ども・お年寄りなど）や地域を巻き込んで、より有益な活動ができるのではないだろうか？（例：子ども達とのレクリエーション・過疎地や空き屋を活用したイベント・農耕地の再生活動・就労支援型カフェとのコラボなど）

■私達ならではの『恥(ち)の力』

→本来なら負い目に感じる部分をあえて公表したり活動に生かしたりすることで、ひとつのパワー（ソーシャルアクション）にしていく。

■『過去の体験』をソーシャルアクションに - 〔七歌〕

- ・2015年9月1日 CNNにて“アンチいじめキャンペーン”取材に応じる。
- ・海外アーティスト『フォスターザピープル』に招待され“いじめ撲滅”をテーマにした作詞・ボーカル活動に参加、ピンクシャツデーに携わる。
- ・2016年8月27日『hide and seek ～かくれんぼは終わりにしよう～』を実施。

→七歌の言葉を抜粋（主催ライブの告知文より）

“みんなで傷口舐めあって一緒に泣いちゃうような悲壮感漂うイベントには絶対しません！
いじめられた経験のある、出演者たちが大人になって、こーんなに楽しく、こーんなに笑いながら生きてるぞ！っていうのをお見せします！”

【私達がケアドルとして目指すところ（ソーシャルアクション）】

- ・地下アイドルの現場だけではなく、地域を巻き込んで活動していく。
- ・枠にとらわれないイベントを実施していく。

コラボ・イベントのお誘い・出演依頼・ご相談等、どんな内容も大歓迎です！

痛ドル事務局 Mail: info@itadol.com（さちこ）

いなぎiスター劇団特別公演

～いつまでも住み慣れたまちに暮らしつづけたい、明日があるさ！～

いなぎiスター劇団

平成19年（2007年）から、いなぎ社会福祉士会の会員を中心に、寸劇をとおして成年後見制度の普及啓発を目的に活動しています。成年後見制度に関心のある市民などを対象に、稲城市内だけでなく、都内各区市、川崎市などで十数回の公演を行ってきました。寸劇は、判断能力が不十分になってきた主人公が、困難に出会いながらも、地域の人達の支援を受け、成年後見制度を利用することで、安心して地域で暮らし続け、自分の夢を叶えていくというストーリーです。

はやて君の出発

今回は、知的障害のある「はやて君」が主人公です。はやて君は、鉄道が大好きな39歳で、福祉作業所に通っています。お父さんは半年前に病気で亡くなり、お母さんと二人で暮らしています。お姉さんは結婚して九州に住んでいます。最近、友達の中にはひとり暮らしをしている人が増えてきて、自分も「ひとり暮らしをしてみたいな」と思うようになりました。悪質業者に騙されそうになりながらも、無事にひとり暮らしを始めることができるのでしょうか。

いなぎiスター劇団の名（迷）演技にご期待ください。



クイズに挑戦しよう！

劇のあと、成年後見制度に関するクイズを行います。最近のニュースや司法統計などから、社会福祉士なら知っていて当たり前の常識？からかなりの難問までを出題します。ぜひ挑戦してください。

